

「追加日程」決定 予約受付中

25日

グループディスカッション、必勝模擬面接

大阪新卒応援ハローワークは3月23日に「集団模擬面接」グループディスカッション（以下GD）のセミナーを追加で開く。写真はGDセミナーの様子。採用のポイントは何といっても面接対策だ。セミナーでは「なぜうちの会社でこの仕事をしたのか」「学生時代に打ち込んだことは」など基本をしっかりとし身に付ける。一方GDは、メガバンクなどの金融、メーカー、航空、マスコミ、国家・地方公務員の採用試験に導入されている。ある大手企業のセミナーに参加した学生は「会社概要の説明とともに、模擬面接やグループワークがあった。テーマは身近な内容だったが、初めて会ったメンバーとそこで話をまとめるのに四苦八苦した。評価の基準が分からず、これは対策が必要だ、と痛感した」と感想を漏らす。セミナーでは、オリジナルのテキストを用いた座学と参加者による実践でGDのポイントをつかみ、本番に生かしてもらおう。「追加日程」は、グループディスカッションと参加者による実践でGDのポイントをつかみ、本番に生かしてもらおう。「追加日程」は、グループディスカッションと参加者による実践でGDのポイントをつかみ、本番に生かしてもらおう。



大阪新卒応援ハローワーク

企業はなぜ、グループディスカッションを採用試験で実施しているのか。

第一は、応募者がどんな人物かを知る。第二は集団行動から本人の特性を確認するためだ。

GDは面接と違い、志望動機や自己PRを事前に準備できない。議論の流れに沿い、その場で考えをまとめる必要がある。企業側か

らすれば、議論の過程で普段の本人があらわれ、評価の参考になる。

例えば言葉遣いや表情、傾聴力、攻撃性などだ。他人から自説を否定された時、どんな表情や態度をとるのか。他人の意見をしっかりと聞いているか。相手に対し攻撃的に反論するタイプか

は、個別面接や集団面接では、なかなか判断できない。このため、初対面という人間関係の中で、どう振る舞うかを判断する材料に、グループワークはうってつ

自分の役割をこなしているか

他人の役割を支援しているか

時間内に一定の意見をまとめる

けなのだ。

では、採用担当者は、あなたのどこを見ているのだろうか。セミナーに参加した評価者（ジョブサポーターと他の参加者）は、あなた

のどこを見ていたのか。

一つ目は、思考のバランス感覚だ。独善的な考えに陥っていないか。データや統計など客観的な事実を踏まえ、議論を組み立てているか。

二つ目は、自分の経験に基づき、自分の言葉で話しているか。一般論や抽象的な話でなく、具体的なエピソードを交えて話しているか。面接官は、あなたに新聞の社説のような内容を期待しているわけではない。

三つ目は、会議の中で人間関係をどう構築できるか。採用試験は多くの場合、参加者がみな初対面の環境でコミュニケーションを図らねばならない。その際、臆せず相手の懐に入っていく対人能力はあるか。いわゆるコミュニケーション能力の全般が問われている。

23日

集団模擬面接

志望動機と自己PR、ここで磨け



受講の注意点

- ・ 欠席の場合は、必ず電話でご連絡ください。
- ・ 遅刻は原則、認めませんのでご注意ください。

評価のポイントは

- ①積極かつ能動的な参加
 - ②与えられた役割の遂行
 - ③他者を尊重
 - ④とりまとめ、報告・提案への関与の度合い。
- となる。
- GDの三箇条は、
- ①自分の役割をこなす。
- 自分の意見を主張するともに、他人の意見に耳を傾け、グループでの役割を果たす。表情を意識し、笑顔で全員に問いかける。ホワイトボードや、ふせんがあれば有効に使用

う。

- ②他人の役割を支援する。

これが一番大切な役割だ。グループが一体化できる環境をつくる。自分の意見を押し通

模擬面接「経験踏まえ具体的に」



模擬面接のセミナーに臨む参加者 (2015年3月6日)

他流試合 本番さながら

すことが目的ではない。メンバーの意見を復唱したり、要約し、全員が意見を言えるよう配慮する。

- ③時間内に一定の意見をま

とめきる。

GDは素晴らしい結論 正解を出すことではない。セミナーで実践を積むことが、突破の第一歩といえよう。

ルプレーイングを通じ客観的な視点を身につける。

「自己PRをどうぞ」。

「あきらめない意志の強さです。ボランティアでリーダーの役割を担った際、人に仕事を頼む難しさを感じ、くじけそうになったが、思いを話すことで周りは協力してくれました」。

模擬面接では、志望動機や自己PR、学生時代に頑張ったことなどについて矢継ぎ早に質問が飛ぶ。参加者は多くが初対面。そんな相手にどう分かりやすく伝えられるか。そこがポイントだ。抽象的な表現や文章の丸暗記に対しては「この内容では、どんなボランティアを何年くらい、どのように頑張ったかが不透明

だ。やはり具体的なエピソードを交えて語って欲しい」「笑顔でさわやかな印象だったが、もう少し言葉にハリがあるとやる気を感じると思う」「誠実そうで印象は良かったが、うっむき加減だった。面接官を見て話すと自信があるように見えるのでは」などと観察者から鋭い指摘が飛ぶ。

最後に講師が全体の流れや注意点をアドバイス。「自らの経験を踏まえ、どのように困難な状況を乗り越えたのか、具体的に話して欲しい。また、文頭に『私は』という主語を持つてくることで、話し手の意図が明確になり、内容が相手に伝わる」と解説。会場の入室から着席までの言葉遣いや立ち居振る舞い、答える時の目力の大切さも合わせて強調した。参加者は「声が小さいと指摘されてきたが、このセミナーでしっかりと声を出す練習ができた。この気持ちをお忘れず、本番に臨みたい」と話している。(記事は写真と別の日のものです)

「リハーサルなのに緊張して頭が真っ白になった。答える内容は事前に考えてきたが、あらためて話してみると、内容が薄いと感じた」。模擬面接を終えた参加者は、ほっとした表情を浮かべながらも反省の言葉を口にした。

「基本を学ぶ必勝！模擬

面接」は、最大で5人が一組となり、本番さながらに面接を行うセミナー。事前に希望職種や応募企業名を記入してもらい、より本番に即した形で進めている。参加者は応募者役、面接官役、面接の流れや全体を評価する観察者役をこなす、お互いを評価。ロー